

「津々浦々 百千舟—江戸時代横浜の海運」展より 東廻り航路の湊と 神奈川湊

企画余話

寿福滋写真展「杉原千畝と命のビザ—シベリアを越えて—」

ユダヤ難民と横浜

レックルあやうし!?

第1回レックル総選挙

〔館長コラム vol.2〕館長が行く!横歴探訪

橘樹郡家の特殊建物に探る
古代の横浜



神奈川沖の和船 横浜開港資料館蔵 明治期

EXHIBITION これからの催しもの

*日程・内容は都合により変更になる場合があります

企画展

横浜市歴史博物館・神奈川大学日本常民文化研究所主催「和船と海運」
「津々浦々 百千舟—江戸時代横浜の海運」

1月28日(土)~3月20日(月・祝)

関連イベント

・展示関連講座

2月11日(土)、3月11日(土)、3月20日(月・祝)

各日14:00~15:30

当日受付 参加費500円

・フロアレクチャー

2月11日(土)11:00~、2月26日(日)11:00~・14:00~、
3月11日(土)11:00~(約1時間) 当日受付

・観覧車にご招待

日付印のある企画展チケット半券で、モザイクモール港北
の観覧車に無料で乗車できます。
(1乗車定員4名、当日1回限り)

〈神奈川大学 会場のご案内〉

「順風満帆 千石船—和船の構造と技術」

会場:神奈川大学横浜キャンパス3号館展示ホール

会期:1月30日(月)~3月17日(金)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

○開館時間

9:00~17:00(ただし券売は16:30まで)

大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

○休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 そのほか展示替え
などのため、臨時に休館することがあります。

○常設展観覧料

区分	個人	団体(20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は無料です。「濱ともカード」
など証明できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」「精神障害者保
健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の
際に手帳をご提示ください。

横浜発掘物語2017・横浜の遺跡展

4月4日(火)~6月11日(日)

常設展示室ミニ展示

大倉精神文化研究所内遺跡出土資料

12月17日(土)~2月5日(日)

企画展「津々浦々 百千舟」展開催記念

浮世絵・絵図で旅する横浜の海辺

2月18日(土)~4月2日(日)

〔解説日〕2月25日(土)・3月25日(土)

体験学習室

ちょっと昔を探してみよう・冬

11月26日(土)~3月29日(水)

○交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

(「センター北駅」へは横浜駅から23分、新横浜駅から12分)

・駐車場あり(1時間200円)



〔URL〕 <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
〔twitter〕 @yokorekihaku

東廻り航路の湊と 神奈川

「津々浦々百千舟」江戸時代横浜の海運」展より

文 吉崎 雅規

東北地方の太平洋岸から江戸に達する海上ルートを東廻り航路と呼びます。当館ではこの航路を描いた手書きの絵図(図1)を所蔵していますが、絵図に記されている町や湊に残された史料を調査した結果、東北地方と神奈川湊(江戸時代横浜市中心の港)の、これまで知られていなかった結びつきがわかってきました。

「津々浦々百千舟」展の内容の一部をまとめるかたちで紹介いたします。

江戸と神奈川湊

江戸(青森県八戸市)は盛岡藩の支藩・南部家(二万石)の城下町として栄えた東廻り航路の町のひとつです。江戸を代表する商家・石橋家の史料のなかに、神奈川湊とのつながりを示す古文書が残されていました。

天保一〇年(一八三九)四月一二日、神奈川湊の津屋太兵衛(廻船問屋)とみのや源兵衛は、江戸の石橋兵右衛門と渡辺安兵衛にあてて大麦二五三〇俵、蕎麦一四三俵など一八四二俵を積み出しました。この荷を積んだ住吉丸は同月二六日に江戸に入港し、送り状の写しが「船手御用留」(図2)という史料に書きとめられました。大型の弁才船(輸送船)一艘の積載スペースを必要とする大きい取引が、神奈川湊と東北地方の商人とのあいだでおこなわれていたのです。さらに文久元年(一八六二)七月一〇日、石橋徳右衛門は「神奈川むしろ」八〇〇枚を六両一分(約六二万円)で購入しており(東北大学附属図書館蔵「安政七年船手御用留 十四番」)、神奈川で生産された商品が江戸に送られていたことがわかります。

平潟と神奈川湊の船乗り

現在の平潟(茨城県北茨城市)はあんこうの水揚げで知られる静かな漁港ですが、江戸時代には東廻り航路の湊として多くの廻船が入港し、賑わいをみせていました。港を囲むように伸びる鵜ノ子岬には鎮守の八幡社が眼下の港を見守っていますが、この小さい社は天保六年(一八三五)に火災に遭いました。社の再建のため平潟では湊に出入りする全国の廻船に募金をつのります。

江戸・大坂の商人をはじめ、箱館(函館)、松前、江差、新潟、村上、江戸、宮古、仙台、石巻、那珂湊、銚子、館山、浦賀、三崎、相良、掛塚といった全国の湊の商人や船乗りたちが募金に応じましたが、そのリストのなかに神奈川の船と船乗りの名がありました。嘉永六年(一八五三)九月二五日、「金川」(神奈川)の竜善丸定八が金百足(金一分に相当、約二万五千円)を、安政元年(一八五四)三月四日には「武州金川」(神奈川)の竜徳丸熊太郎が同じく金百足を寄附しているのです(図3)。神奈川湊に船籍をもつ船と船乗りたちの活動はよくわかっておらず、彼らの名前が東廻り航路の湊から見出されたことは小さな発見と言えるでしょう。

従来神奈川湊といえは、知多半島の廻船集団(内海船)とのつながりや、江戸湾海上交通の拠点としての役割が知られてきました。東廻り航路と神奈川湊の結びつきを示唆する研究はあったものの、東北地方の湊との具体的な取引・交流の様相を示す史料は今回の展示が初紹介となります。江戸時代の横浜地域は東北地方の津々浦々とも、たしかにつながりをもっていたのです。



◆図1 北海道南部・東北地方北部の航路図
「自江戸従松前海上図巻」(部分) 江戸時代
横浜市歴史博物館蔵



◆図2
「船手御用留 十一番」
天保9年(1838)～
嘉永7年(1854)
八戸市博物館蔵
(西町屋文書)



◆図3
神奈川湊の竜徳丸熊太郎が
平潟の八幡社の再建に寄附
安政元年(1854)3月4日
「嘉永三年諸廻船募縁調帳」
菊池洋氏蔵



◆図4 平潟の湊 大正15年(1926) 菊池洋氏蔵
菊池家は江戸時代、平潟を代表する廻船問屋だった。

戦火に追はれて 漂泊する北欧人

ハマの宿屋は大入満員

ヨーロッパの戦火に追はれて、漂泊する北欧の小国ポーランド、リトアニア、ラトヴィア、ノルウェー等から中南米に落ちのびるユダヤ難民で、ハマの二流、三流ホテルはこの寒気に侵され、客ははたして泊れるロビーでこれ等難民の憂鬱な顔が同調をひいてゐる。

バンド・ホテルでは昨年十一月から滞在してゐたギリシアからの避難客メーヌ氏の二階六号を数日前空にした後、ポーランド人A・テンベル氏夫妻、ラトヴィア人B・テンベル氏夫妻、リトアニア人C・テンベル氏夫妻等がロビーの一隅に集つてなかなか下附されぬパナマ國からのパス・ポートを心配してゐる。



それまた見ぬ行き先き地の地味をひろげて語り合つてゐる。ホテルではこれ等の難民を収容し切れず、バーやロビーへまでもベッドを持ち出す始末である。ワルシャワ・イツク氏にポーランド脱出の話を聞く。

一九三八年獨逸軍がポーランドに進駐、ワルソー空襲が始まつた頃私はワルソーで弁護士をしてゐたが、いよいよ首都が危殆に瀕したため、近郊の二十家族を引連れて脱出した。リスアニアからラトヴィアと漂泊の旅の後、ロンドンに到着した。母國との連絡が絶へたので全く解りません、一睡に落ちて来た二十家族は難民、教師、技師等幾人ですが所持金が少いのでユダヤ人救済會からの援助金で全

● 新聞記事「戦火に追はれて漂泊する北欧人—ハマの宿屋は大入満員—」
(朝日新聞神奈川版、1941年1月12日付)

部中南米へ送つてやりました。私はパレスティナに両親が機關をやつてゐるので、其處へ行く苦しさ、あちらでも一度難民士の試験を受け直さねばならず、戦火に追はれて漂泊する北欧小國民のことを思ふと日本の人の生活がうらやましくなります。『私はポーランドから避難したワルシャワ』



寿福滋写真展「杉原千畝と命のビザ—シベリアを越えて—」企画余話

ユダヤ難民と横浜

文 井上攻

昨年の一二月二七日に終了した寿福滋写真展「杉原千畝と命のビザ—シベリアを越えて—」では、ユダヤ難民と横浜との関係資料を若干展示しました。展示図録は作成しなかったもので、この紙面を借り簡単に資料紹介します。

ナチス・ドイツに迫害を受けたユダヤ難民は、シベリア鉄道でウラジオストクに着き、敦賀に渡り、外国航路の出港地神戸・横浜に向かいました。一九四〇年七月から一九四一年八月までのことです。敦賀や神戸のユダヤ人の動向については、資料や目撃証言がありますが、横浜に関しては良くわからないのが実情です。

横浜からユダヤ難民がアメリカ大陸へ多く渡る状況は、外務省がつかんでいました。松岡洋右外相からサンフランシスコ総領事宛電報（一九四〇年七月二十六日付、外務省外交史料館所蔵）には、横浜発の鎌倉丸で二三名、同じく氷川丸で七七名のユダヤ人が、アメリカに渡る状況を知らせ、今後多数に上るであろうとしています。松岡の予想通り、およそ一月後の「横浜貿易新報」（一九四〇年九月二日付）は、横浜出航の氷川丸乗客三九〇名の内一三〇名がユダヤ人と伝えています。この時期の乗船者リストに関しては、アメリカのDLC（在米のユダヤ難民救援機関）のアーカイブ（Lists in the Names Database DLC archives）が氷川丸などのリストを公開しており、今回は二点ほど展示しました。

戒律により食材に制約のあるユダヤ難民にとって、乗船中の食事内容は大きな問題でした。その問題に対して、日本郵船が配慮したことが同社発行の『社船調度品由来抄下巻』（一九四二年、日本郵船歴史博物館所蔵）に書かれて

います。「独逸国内に於ける猶太人排斥の結果、日本郵船を利用するユダヤ人が増加すると認識した上で、同社は、ユダヤ人の習慣にあう船内食を提供し、「出来得る限り猶太人船客の希望に添ふこと」としています。

渡航までの間ユダヤ人たちは、長期、短期にわたり横浜に滞在しました。当時の新聞には、「戦火に追はれて漂泊する北欧人—ハマの宿屋は大入満員—」（朝日新聞神奈川版、一九四一年一月二二日付）、「満員盛況のバンドホテル」（神奈川新聞、一九四一年六月六日付）などと、ユダヤ難民の宿泊により、横浜のバンドホテルやセンターホテルが満員状態であったことが紹介されています。朝日新聞からインタビュを受けたセンターホテル（山下町六六番地）滞在中のゾラフ・バ（ワ）ルハフティクは、杉原千畝からビザを受け取ったポーランド系ユダヤ人でした。多くのユダヤ難民が、短期の滞在で渡航していったのに対し、バルハフティクは、同ホテルに半年以上滞在し、ポーランド系難民の救済活動を行いました。彼の自伝『日本にきたユダヤ難民』には、その間、横浜のイギリス領事館（現横浜開港資料館）へ申請に行つた際の失敗談や日本郵船横浜支店と難民輸送で交渉した苦労話などが記されています。

後年、イスラエルの宗教大臣も務めたバルハフティクは、中日新聞の取材を受けました（中日新聞社会部編『自由への逃亡—杉原ビザとユダヤ人—』）。彼が滞在するセンターホテルには「十二月二十六日は十九通。二十七日、二十八日は計二十通。」など、海外の難民から窮状を訴える電報が届き、その数は二五〇通に上りました。バルハフティクはその対応に横浜を拠点に奔走し、東京・横浜で訪ねなかった大使館、領事館は無かったと記しています。一方、ドイツ系難民の救済は、山下町二四番地にあった高級アパート互楽荘が拠点となりました。互楽荘には救済委員会の中心人物であった貿易商ハインツ・マイベルゲンの事務所があり、多くの難民が出入りしたと言われますが、確かな一次史料の裏付けはありません。

横浜におけるユダヤ難民の動向を知る資料は現在ほとんど見つかりません。また事後七五年が過ぎ、聞き取り証言を得ることも難しくなりました。今後はどんな些細な情報でも見逃すこと無く、粘り強く調査・研究を進める努力が必要となります。今回の展覧会が関連研究の端緒になれば幸いです。

2016-7

(12月17日～2月5日)

ミニ展示

「大倉精神文化研究所内遺跡出土資料」



応接室に陳列された出土品(大倉精神文化研究所提供)

梅の名所としても知られる横浜市港北区の大倉山公園。この大倉山の台地上に、弥生時代の遺跡があったことをご存知ですか？

「大倉山」の駅名、さらに地名の由来ともなった大倉精神文化研究所は、実業家であり、思想家・教育者としても活躍した大倉邦彦（一八八二～一九七二）によって、ライフ・ワークである精神文化事業を行うために、神奈川県橋本郡太尾（現在の太尾山二丁目）に設立されました。遺跡が見つかったのは昭和四年（一九二九年）十二月、研究所の建設にあたっての基礎工事の最中でした。翌年一月から二月にかけて、文部省嘱託であった考古学者、古谷清が出土遺物と工事現場を実見しています。五月の落成式にあたっては、出土資料の展示も行われました。

見つかった土器は弥生時代中期から後期にかけてのもので、完形・半完形の残りの良い資料が多く含まれています。火を焚いた炉の跡や竪穴住居の跡も確認されており、この台地上に弥生時代の集落があったことがわかります。弥生時代中期の磨製石斧も見つかりました。このほか、縄文

時代草創期のものと考えられる打製石斧があります。

当時はまだ南関東地方の弥生時代の資料は少なく、大倉精神文化研究所内遺跡（太尾遺跡）出土の土器は良好な資料として注目されました。古谷による報告に続いて、八幡一郎や江藤千萬樹による資料調査が行われ、報告が学術雑誌に発表されています。その後、『弥生式土器聚成図録』（森本六爾・小林行雄編編一九三八）に土器八点の実測図が掲載されるなど、地域の土器編年を構築するにあたっての基礎資料となります。こうして「太尾遺跡」の名前は関東地方の弥生研究者の間でよく知られるようになったのです。

出土した遺物は、大倉精神文化研究所で長く保管・展示されていましたが、二〇〇〇年から横浜市歴史博物館において再整理と報告を行い、現在は横浜市歴史博物館に寄託されています。今回のミニ展示は、横浜市歴史博物館においては初の公開となります。

（高橋 健）

※上の写真で「縄文式土器」とあるのは、縄文をもつ弥生土器。

2016

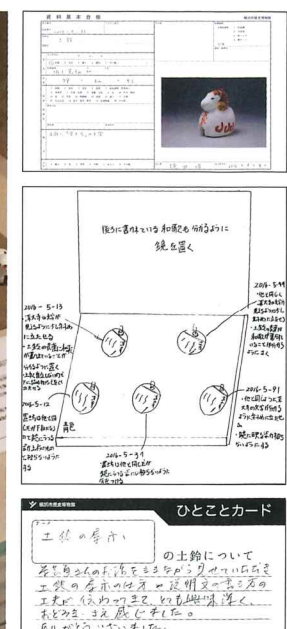
(10月15日～12月4日)

ミニ展示

「土鈴を“伝える”」



右上:実習生が整理で作成した調査カード 右中:展示プランを図化した展示指示書 右下:お客様からの感想を得るための「ひとことカード」



今回のミニ展示「土鈴を“伝える”」では、縁起物や民芸品としてよく見かける「土鈴」を展示いたしました。皆様に見ていただきたかったのは、実は博物館実習生の学生さん達が一生懸命に考えた学びの成果です。

現在、全国の多くの大学に学芸員課程という専門コースが設置されています。これは、博物館活動の中心となる「学芸員」の資格を得るためのコースで、実際の現場で学芸員の仕事を学ぶ博物館実習という内容が含まれます。当館も毎年多くの大学から学生さんを受け入れ、博物館資料の整理をはじめ、写真撮影やワークショップの指導・補助といった実践的なメニューを、五月から十一月の間の約一〇日間に経験してもらっています。ミニ展示でご覧いただいた土鈴も、この実習の中で学生さん達によって整理されたものです。

さらに今回は、当館の実習として初めて「展示」という内容を盛り込みました。学芸員に求められるスキルにはさまざまなものがありますが、資料の整理・調査・展示という仕事は、その中で最も基礎的でその他の業務にも繋がる根幹のものでもあります。

二展示のタイトルに「伝える」としたのは、整理の過程の中で気がついたこと、疑問に思ったこと、面白いと思っただけを調査研究で深め、お客様に伝えて欲しいと考えたからです。何を伝えるかは実習生それぞれの着眼点によりますが、どのような説明文にまとめるか、どう展示するか、それによってお客様に自分の考えた意図がどう伝わるか、これらを考えることは、その根幹の部分を体験してもらうことに他なりません。

また、展示をすると気になるのがお客様の反応です。今回は「ひとことカード」というアンケートを設置し、ご覧いただいた皆さまからのご意見やご感想などをいただきました。実習生のアイデアに対する驚きやあたたかい言葉、また厳しいご意見などさまざまな反応がありました。貴重なコメントを寄せて頂きました皆様に御礼申し上げます。

少しでも実りの多い実習にしたい、ただきたいと企画した今回のミニ展示でしたが、皆様いかがでしたか？こうした機会にも博物館のいろいろな活動を多くの方に知って頂ければ幸いです。

（羽毛田 智幸）

第1回 レックル総選挙

レックル
あやうし!?



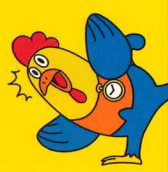
横浜市歴史博物館のマスコミキャラクターとしておなじみのレックル!

レックルという名前がつけられたのは2010年でしたが、このオナガドリのマスコミは、歴史劇場の案内役として、1995年の開館以来活躍してきました。しかし、実はレックルがこの座を射止めるにあたり、競争に敗れたライバル達がいたのです。博物館の収蔵庫で眠っていた鳥キャラクターのプロトタイプ達...22年間の眠りから覚めたヤツらが、二代目の座を狙ってレックルに挑戦状をたたきつける!

投票場所 横浜市歴史博物館 常設展示室内 **投票期間** 2017年1月28日(土)9:00~17:00 / 1月29日(日)9:00~15:30

結果発表 2017年1月29日(日)16:00 / エントランス (第1回レックル総選挙・選挙管理委員会)

※今回のレックル総選挙での勝者が、二代目マスコミキャラクターおよび歴史劇場の案内役として活動する予定です。ただし予算等の関係上、実施できない場合もありますので、ご了承ください。



候補者紹介

第1回レックル総選挙に立候補する7羽の二代目レックル候補たちを、意気込みの声とともにご紹介します。



メカレックル

ワタクシハ ニジュウイツセイキノ
レキシハクブツカンニ フサワシクエーアイ
スナワチ ジンゴウチノアラ カゾヨウシタ
キャラクターシート ハクブツカンノ
ハッテンニツクシマス。

「レックル? 0」



マッハ = ハヤブサ

大体鳥キャラの選挙だっていいながら、飛ぶのが苦手なヤツもちらほらいますよね。これからの時代はスピード感が大事でしょ。とにかくニワトリ野郎の時代はもう終わってこっすね。

「れきはくのスーパースター」



レックル

わたくしレックルは、横浜市歴史博物館において22年間にわたり、歴史劇場の案内役およびマスコミキャラクターとしての活動を積み重ねてきました。歴博の明日は、信頼と実績のレックルにおまかせください。

「確かな実績 明るい歴博」



ドードー伯爵

歴史博物館のキャラクターには高度な歴史性、稀少性、知名度、ロマンなどが求められます。これらの観点から、その地位に相応しい鳥は、このドードー伯爵を置いてほかにはないと言えるでしょう。

「絶滅からよみがえれ！」



白鳥先生

私は幼少時の逆境に負けずに現在の成功をつかみました。候補者の中で唯一の渡り鳥であり、国際性という点においても他の追随を許しません。国際都市ヨコハマの博物館の顔にぜひ白鳥先生を!

「世界にはばたけ 歴史の翼」



コンドル

鳥キャラじゃなくただの鳥だからか、なんて台座がないのかとか、一羽だけスケールが違うとか、手抜きだとか、そういう問題じゃないんです。大切なのは歴博のためにこれから何ができるか、でしょ?

「タカ目コンドル科」

そりや正直なところ、「何なんだこの茶番は」って思ってますよ。だってこっちは22年間、毎日毎日働いてきたんですよ。歴史劇場の案内役だって案な日ばかりじゃないですよ。子ども達がうるさくなくてなかなか話を聞いちゃったたり、逆に全然お客さんがいなくて中止になったりね。出てった途端に小さな子に泣かれたこともあったなあ... この年になると調子が悪く思ってしまうように体が動かない日もありますが、そんな時でも一生懸命にメンテナンとして頑張ってきたわけですよ。それを今さら総選挙だ、収蔵庫ですと寝てた奴らと横一線で勝負しろって言われてもねえ。大体「レックル」っていう名前だって、僕に對しての公認でつけた訳じゃないですか。それをいきなり違う鳥キャラが二代目になるかもって、それは筋が違うってもんでしょ。とにかくそういう意味で今回の企画にはボクとしては全然納得はしていませんけどね、でもやると決まったからにはしょうがない。圧倒的に勝ってやつを見せつけてやりまっすよ。



レックル
に聞く



「れきし工房」参加しました

「横浜の土偶」

東京都・いしはらさん一家 2016年9月24日参加

練馬から参加のゆいみとあかりに縄文好きの父がインタビューしました。



あかり(小6)

はじめオリジナルはつくれないんだ、と思ったけれどドラえもん顔を作った人もいよと聞いて楽に。こんな土偶は見たことがなくて、ジョウロに使いそうと思いました。粘土は意外と早く乾くから時間とのたたかい、作ってみて難しかったのは、指紋とか自分の指の跡を消すのがたいへん。縄文人ってハイスペック。おじさんが作るのを手伝ってくれて無事に完成。焼き加減で模様がついておもしろい、可愛いと思いました。

ゆいみ(小3)

モデルになる土偶の図をみて有名な遮光器土偶ではなくコッチ系(筒形)か。と思った。(悪い意味ではなく)こんな土偶があるのかと思ってビックリ。親切なおじさんに作り方を教えてもらって楽しかった。おっぱいがとんがってまたビックリもっとまるくなるはずだった。焼くときの火は大きくて思ったより熱かったです。



本箱におさめています。

「ぞうりあみ」

川崎市・なかたにさん一家 2016年11月27日参加



「そもそも、わらって何だっけ?」と言いながら家族4人で初めての歴史博物館へ。「草履はサンダル、わらじは紐を足首に巻いて固定できるのでスニーカー。」そんな豆知識も教えてもらいながら作業開始。芯となるわら縄に、黙々と稲わらを編み込むこと約2時間、子供たちのことも忘れて作業に没頭してしまいました。

完成したわら草履を裸足で履いてみて、予想外だったのは履き心地の良さです。固くてチクチクして痛そうな履き心地を想像していたので、完全に裏切られました。子供達も自分で作ったわら草履に大満足です。履くと馴染んで柔らかくなり、つやも出るそうです。夏になったら家の中で履いてみたいと思います。

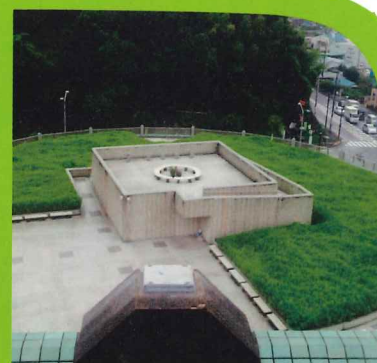
わらは中空構造になっていて断熱効果もあり、昔から屋根や履物など色々な物に使われていたそうですが、わら草履のシンプルで丈夫で無駄のない作りには、昔の人の知恵や工夫を感じます。わら草履作りを通して自然と昔の人の暮らしを想像した一日でした。

れきはくチャレンジ

歴博田んぼ

歴博の屋上でひそかにお米作りをしていたのをご存じですか? 「大おにぎり展」に関連して2014年に初めて試行してから、早くも3年が過ぎました。苗代を日陰に置きっぱなしにしてほっそいヘナヘナの苗になってしまったり、夏場に水やりをさぼって枯らしてしまったり、いろいろな失敗をしながらの試行錯誤。館の仕事で行った小学校で、小学生のバケツ稲が青々と育っているのを見て劣等感にかられたあの日。「やっぱり俺たち縄文人に稲作は早すぎたんだ…」というなげき声も聞かれましたが、どうにか今年も収穫にこぎつけました。いよいよ来年度は、収量アップを目指して水田の拡大に乗り出します!

苗代に差がついております。



おにぎり作れない上からのアングル!



小さな釜で調理

三代目、歴博米だー



これでオレたち弥生人!



橘樹郡家の特殊建物に探る 古代の横浜

文 鈴木靖民

古代の横浜には武蔵国橘樹郡が含まれます。川崎ではと思う方もいるでしょうが、九世紀初めの『和名抄』に載る同郡の高田郷が今の港北区に地名として遺ることがその証拠です。古代の郡の政治・文化の中心が郡家とその周辺です。昨夏（二〇一六年）、川崎市千年などの国史跡の橘樹郡家跡に関するシンポジウムの記録を頂きました（『史叢』九八）。七世紀後半、大和王権は地方支配のために各地に評（のち郡と呼ぶ行政区を置き、下に五十戸ごとに住民を編成し（のち里、評家を設けました。川崎市教委の総括報告書で、発掘された橘樹評家の、真北よりも少し西に傾いた溝（布掘り）状の遺構を渡来系の技術者が関与したとみたことに対して、かつて調査した河合英夫さんが疑義を述べているのです。細長く溝状に地盤を掘り、その上にいくつもの柱を

立てて土壁で作る方形の建物であれば、五世紀後半以後、近江と大和の飛鳥に多く分布する朝鮮（百済など）からの渡来人の建てた大壁建物と同じで大いに注目されます。建物などにはオンドル遺構や移動式カマド（炊飯具）を伴う場合があります。

私は十二月、再調査中の現地を訪ね、担当の栗田一生さんに説明して頂きました。確かに建物のための溝跡が現れましたが、北側にはなく、東西南の三方だけに壁などが建ち、しかも隅が土橋状に空いた建物が想定されました。溝は一メートル弱の深さで、底を固く平らに整え、等間隔に柱を承けた跡もうかがわれました。普通の大壁建物とは少し違った建物です。だが、その北西では斜め方位の四方に溝があつて、隅が空いた方形の建物跡が推定されました。遺構全体の変遷をみると、一期



橘樹郡家跡第21次調査風景（川崎市高津区千年）

私が館長の
鈴木です。



土）氏は、河内をはじめとする各地の屯倉の文筆、計算、農業管理、経営のエキスパートとされます。屯倉は倭王が住民支配を進める拠点を称すると同時に、その支配エリアをも意味します。屯倉は七世紀中頃、評となるのがパターンの一つであり、その施設が評家です。そしてこの地域には六世紀に橘花屯倉があったので（『日本書紀』）、五百国は屯倉経営に関わった吉士の子孫でしょう。その評から郡に移っていく時期には、吉士氏が近くに住んだか、豪族たちが会したか、郡家設置の準備のための事務、設計、また機材などの置き場とする目的で設けたのがこれらの建物でしょうか。



移動式カマド
（権田原遺跡）

（七世紀紀半ば以後）は不明ですが、二期（七世紀第四半期）のかなり西に傾いた三棟の倉庫、その西の溝状遺構と南北に規則的に並ぶ四棟の側柱建物（屋）があり、それらを埋めた後、壁を持つ可能性のある建物が造られたとみられます（栗田さんは二・五期（七世紀末）と呼びます）。次いで三期（八世紀以後）の真北の掘立柱建物群が建ちます。西隣の影向寺の下層建物も二期とされ、「荏原評」云々と刻まれた瓦が出土しています。これは七世紀後半、橘樹と荏原の一体性を感じさせます。さらに郡家と寺のある千年伊勢山台の丘に立つと、眺めが四方に広がる絶好の地であることに気づきます。都筑郡家（長者原遺跡）と荏原郡家の中間で、古代道の跡と思われる東西の中原街道が通っており、西側に南北に通る道もある要衝の地を選んだのです。

私は評家（郡家）と寺の造営に関わったのは渡来系の建築技術を知る人だろうと考えます。橘樹郡には、七六八年、久良郡で白雉を獲つて献上した飛鳥部吉志（五百国）がいました（『続日本紀』）。渡来

人の吉志（吉

この種の建物は特殊で類例がないようですが、渡来系の技術、知識の影響や応用を認めないと思います（新来の渡来人なら大壁建物を建てたかもしれない）。飛鳥部吉士氏は橘樹評（郡）の施設を建てるだけでなく、屯倉経営のノウハウを受け伝えて、評の分割五十戸の区分、住民の編成などの策定にも当たったと想像を広げてみるのです。私は港北ニュータウン・権田原遺跡の七世紀の住居跡のカマドの脇に移



Museum Shop pick up Item

ミュージアムショップ ピックアップアイテム



紙袋

ショップで皆さまにお買い物いただいたグッズや書籍をお入れする、緑色のロゴマークが施されたクラフト色の袋は、大小様々なサイズがあり、マチ付きや紐付きの手提げタイプのものもご用意しています。

実はこれ、全てショップスタッフがサイズ60×45cmのオリジナル用紙をカットして手作りしているのです。しかも、それぞれのサイズの袋を作る際にほとんどムダな部分が出ないというのが驚きです！

現在、5人いるスタッフは全員、手早いカッティング技術に複数の糊付けもいっぺんにこなすという、手先の器用さで、あっという間に何枚もの袋ができ上がります。とても手作りには見えないほどのクオリティの高さです！

オリジナルの紙は厚みと張りがあるしっかりしたもので、シワになりにくいものを使用しています。プレゼント包装を希望されるお客様にもリボンシールを貼るだけで、素敵なラッピングになります。それ以外にも、ご希望に応じてブックカバーも作っています。ミュージアムショップでお買い上げの際は、是非こんなところにも注目してみてくださいね。

なんと、すべて
スタッフによる手作り！



おおつか さいかちどいせきこうえん

大塚・歳勝土遺跡公園だより

落ち葉はつらいよ

文 橋口 豊

私が
公園担当の
ハシグチです。



大塚・歳勝土遺跡公園（以下、遺跡公園）では、毎年秋になると木々の葉が赤や黄に色づき、訪れた人々の目を楽しませてくれます。これらの樹木は、20年前の開園時に植栽されたものです。開園当時の写真と見比べると、樹木が立派に成長したことがよくわかります。

さて、私たちを楽しませてくれた紅葉が過ぎると、遺跡公園は落ち葉の季節を迎えます。一面落ち葉の遺跡公園は、これはこれで風情があつてきれいなものです。しかし、環濠の中や竪穴住居跡のくぼみに落ち葉が積もってしまうと、せっかく復元した遺構がよく見えなくなってしまう。また、園路に積もった落ち葉が滑りやすい、排水溝が落ち葉で詰まってしまうなどの問題もあります。多くの来園者に遺跡公園を安全に利用してもらうためには、しっかりと落ち葉掃きをする必要があります。実はこの落ち葉掃きも、横浜市歴史博物館の仕事の一つなのです。

大塚・歳勝土遺跡公園の管理・運営は、横浜市環境創造局北部公園緑地事務所、都筑民家園管理運営委員会、大塚歳勝土遺跡公園愛護会など、多くの団体に関わることによって成り立っています。横浜市歴史博物館も史跡指定範囲を中心とした区域を担当し、工房にスタッフ2人が常駐しながら日々の管理を行っています。

11月から1月にかけては落ち葉が最も積もる季節です。

工房のスタッフは朝から竹ぼうきやブロワー（強力な持ち運び式扇風機のような機械）を使つての落ち葉掃きに余念がありません。まず園路や芝生広場など来園者が多く利用する場所から始めて、だんだんと人の来ない場所へ……といきたいところですが、なかなかそう上手くはいきません。風が強い日などは掃いたそばからすぐに落ち葉が積もってしまうので、日に何度も同じ場所を掃除することになります。遺跡公園内で横浜市歴史博物館が管理する範囲はおよそ2ヘクタール。一日で全ての範囲を掃ききることはとてもできず、数日間かけて担当範囲の掃除を行います（なお、遺跡公園全体はおよそ6.6ヘクタールあるので、3割ほどが歴博の担当ということになります）。数日かけてようやく落ち葉掃きが終わったころには、最初に掃いたあたりにはもう次の落ち葉が積もっているのです。落ち葉のシーズンには、これを何度も繰り返すことになります。

こうして掃いた落ち葉の量、昨年度は約22tにもなりました。「落ち葉はつらいよ」と言いたくなってしまいますが、それでもスタッフは「来園した人に気持ちよく使ってほしい、子どもたちにきれいな公園で遊んでもらいたい」との思いで、3ヶ月にわたる落ち葉との厳しい戦いに身を投じているのです。

1996

開園当時と現在の大塚歳勝土遺跡公園

2016

